

自治会フォーラム：読み原稿（約5分）

みなさんこんにちは。本日は「自治会フォーラム」にご参加いただき、ありがとうございます。

これから5分ほどお時間をいただいて、私たちが行ってきた「自治組織の在り方検討会」全8回の議論の流れとその本質的な変化について、簡単にご紹介させていただきます。

まず初めに、このフォーラムの目的です。

私たちは、自治会の未来について、市民の皆さんと一緒に考えるきっかけを作りたいと考えています。

また、約2年にわたる会議の中で、どんな議論がされ、どんな変化があったのかをわかりやすく伝えることも大切にしています。

さて、議論の全体の流れですが、大きく分けて3つの段階に分かれます。

1つ目は「合理性の追求」。

2つ目は「人とのつながりの重視」。

そして最後が「伴走型支援」という具体的なアイデアの提案です。

最初の段階（第1～3回）では、市民アンケートをもとに、自治会の「スリム化」や「役員の負担軽減」など、合理性・効率性の視点で議論が進みました。

特に20～40代の若い世代からは、「加入のメリット・デメリットを明確にしてほしい」「役員の負担が重い」「会費が高い」といった声が多く寄せられました。

この流れが大きく変わったのが、第2回の白戸教授の講演会でした。

ここで出されたのが、

「合理性だけを追求すると、活動がどんどん縮小して、地域の魅力も、人とのつながりも失ってしまう」

という警鐘でした。

このあたりが、大きな「転換点」になりました。

以降の中期段階（第4～5回）では、「つながり」や「顔の見える関係性」が議論の中心になっていきます。

安心感、納得感、充足感。

これらの“目に見えないけれど大切な価値”が、地域活動にとってとても重要だということが改めて共有されました。

そして最終段階（第6～8回）では、「伴走型支援」という考え方が具体的に出てきました。

たとえば――

- － 地域のルールや歴史をまとめた「地域の教科書」の作成
- － QRコードやウェブでの情報発信
- － 野菜の収穫体験やそば打ちなど、「楽しい」イベントを通じた自然なつながりづくり

こうした取り組みが、自治会の価値を「作業」から「参加してよかった」に変えていく力になると感じています。

最後に、この議論を通じて見えてきたこれからの自治会の姿を少しだけ。

- 会費や活動の内容が透明で分かりやすいこと
- 顔の見える関係性を大切にした、あたたかいつながりのある地域
- 一方的ではなく、共に創っていく「共創のコミュニティ」

これらが、自治会が次の世代につながっていくためのカギになると私たちは考えています。

今日のフォーラムでは、この提案が「自分の自治会だったらどうだろう？」という目線で、

皆さんの自由なアイデアや意見を出し合っていただければ嬉しいです。

ご静聴ありがとうございました。